

士別市公営住宅等長寿命化計画（案）に対する
パブリックコメントの実施結果

士別市公営住宅等長寿命化計画（案）について、士別市パブリックコメント制度実施要綱に基づき市民に意見を募集したところ、1名の方からご意見をいただきました。
寄せられたご意見の内容及びご意見に対する考え方を、次のとおり公表します。

パブリックコメントの実施状況

- (1) 募集期間 令和5年2月16日（木）から令和5年3月17日（金）
- (2) 意見提出者数 1名
- (3) 提出方法 直接持参1件
- (4) 担当部署 建設水道部都市マネジメント課

寄せられた意見の概要	考え方
<p>旧朝日町の基幹産業は長期間にわたって林業でした。そんな背景もあって、木造の公営住宅の建設が認められたときに、最初からそれを町に導入したのです。</p> <p>木造公住の初期の標準設計は、しっかりしたものを作ろうという政府の考えもあって、当時の一般の木造住宅よりも頑丈なものでした。町では乾燥強風時に火災が発生しても類焼から避けることを念頭に置いて、大きな団地は作らない、可能な場合には敷地を広めにとるなどの方針で建設が続けられました。</p> <p>こうして建設された木造公住はまちの個性を形づくり、居住者からも町民からも愛されています。居住者からは『引っ越したいと思わない』の声も聞こえてきます。</p> <p>以上のことが『長寿命化計画』の作成にどの程度反映されているのでしょうか。今までの木造公住の維持管理状態（特に屋根の塗装など）から類推判断して疑問を感じています。</p> <p>しっかりした維持管理をすれば、朝日の木造公住は耐用年数が過ぎていてもまだまだ大丈夫です。全戸とはいいいませんが、住宅の現状診断をしたうえで、可能な限り公住が残されることを希望します。</p>	<p>計画見直しにあたり、市営住宅の管理戸数についての考え方は、人口減少などによる需要の減少に対応するため、適正な管理戸数へと減少することとしており、用途廃止団地の選定については、建物の築年数だけでなく、入居率や応募状況、人口・世帯構成等を考慮し、計画しています。</p> <p>なお、屋根塗装などの維持管理については、建物の構造に限らず「劣化状態」「補修履歴」「今後の利用計画」など市全体の公営住宅について計画的に行っていることから、用途廃止が近い住棟については、屋根塗装などを行わない場合もありますが、危険性や緊急性の高いものは優先的に補修を行うなど、適正な維持管理に努めて参ります。</p> <p>また、今後の建て替えにおいては、木造を中心に計画しており、公営住宅法その他法令の基準に則った住棟を、計画的に建設する予定となっています。</p>